

都立西高校長から受験生へ 通用しない「理系だから」「文系だから」

有料記事 校長から受験生へ

本間ほのみ 2023年1月7日 7時00分



東京都立西高校の萩原聡校長=2022年11月18日、東京都杉並区宮前4丁目、本間ほのみ撮影



連載「校長から受験生へ」→

2023年度の中学・高校入試の季節です。主に首都圏の中学・高校の校長から受験生へのメッセージを順次配信します。

東京都立西高校 萩原聡校長

変化が速く、国内だけで完結する時代ではなくなっています。生き抜いていくために必要なものは、豊かな知性や教養。生徒たちには、国際社会で活躍できる器の大きな人間になってほしいと思っています。

「文武二道」と「自主自律」を教育理念に掲げています。「文武両道」にはバランスよくやるイメージがありますが、「二道」は両立を前提にどちらも高い水準で成し遂げようという意味です。

文理選択は3年から 高校は助走期間

大学受験ありき、で考えていません。教養が将来、どこで役に立つかは分かりませんが、必ずや視野を広げてくれます。そのため、西高では2年までは全員、文理を問わず幅広く科目を学びます。理系、文系は3年進学時に選びます。

私の通っていた高校でも様々な科目を生徒に勉強させていました。当時は「なんでこんなにやらなくちゃいけないんだ」と思いましたが、今になってみれば、様々なところで役に立ってきたと感じます。

複雑化する社会で、「理系だから知らない」「文系だからできない」では済まされません。大学で専門

的に学ぶため、高校は助走期間と考えて、広く学んでほしい。10年後、20年後、自分の道を広げてくれると思います。

入学後の自分の姿を描きながら受験を

教育理念に「自主自律」とあるように、部活動をはじめ、様々なことを自分たちでつくる学校です。新入生歓迎会や運動会、文化祭などの行事は、生徒たちで企画運営していますし、部活動は同好会やサークルなどを含めると60以上あります。「この指止まれ」で新たな集まりが生まれているようです。

自由な校風があるからでしょう。勉強もしつつ、部活や行事ものびのびとやっています。制服はなく、頭髪に関する制限もありません。校則もほぼありません。ただ、約束はあります。授業でも行事でも他人が嫌な思いをしないことが重要だと伝えていきます。

多様な生徒たちが集まり、切磋琢磨(せつさたくま)しています。学校内に必ず居場所があります。「3年間、とても忙しかったけど、楽しかった」と卒業生がよく言ってくれます。

入試では、いつもの力を発揮できるよう、リラックスして臨んでください。と言っても、私もかつて高校受験をした際、「平常心で臨めば合格できるでしょう」と言われましたが、本当に緊張しました。入学後の自分の姿を思い描きながら取り組んでほしいと思います。

ただ、高校受験で人生が決まるわけではありません。皆さんは若く、人生には色々なことが待ち受けています。あくまでも通過点。頑張ってください。(聞き手・本間ほのみ)

略歴

はぎわら・さとし 1961年、東京都生まれ。電気通信大大学院修士課程修了後、都立高の数学科教諭に。98～2009年、都教育庁で指導主事、主任指導主事。都立片倉高や昭和高、江北高の校長を経て、18年から現職。

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.